

## 緩和ケアとは？

緩和ケアとは、生命を脅かす病と診断された患者さんとそのご家族に、診断時から提供されるものです。がん治療が終わってからではなくがん治療と並行して提供され、患者さん

だけでなくご家族もケアの対象となります。ご家族が自身を労り、生活を大事にしていくことは患者さんを支えることに繋がります。

また、患者さんやご家族が「どのような人生を望んでいるのか」を考え、その考えに沿って何を選択すべきなのかを「共に考える」「意思決定支援」も緩和ケアの大切な役割です。



## 3 ～がんの治療期と終末期～

がん治療の3本柱として、手術・放射線療法・化学療法（抗がん剤）があり、これらを単独または組み合わせて治療を行います（副作用等を考慮し、治療をしないという選択をすることもできます）。治療を進めていくなかで、身体的または精神的なつらさや、仕事や金銭面など社会的なつらさが出てくることが多くみられるので、それらについても緩和ケアとして携わります。金銭面においては様々なサポートを受けられる可能性が

あるのでご相談ください。

また、がん治療は、副作用などもあり、最期まで続けることができない場合もありますが、痛みや呼吸苦などの苦痛については、いつでもどこでも緩和できるように対応できます。最善を望みつつ、最悪に備える姿勢が大切になり、どこでどう過ごしたいかを考え、周囲の人に知らせておく必要があります。終末期を自宅で過ごすことは大変有意義なことと思いますが、一方で、とても

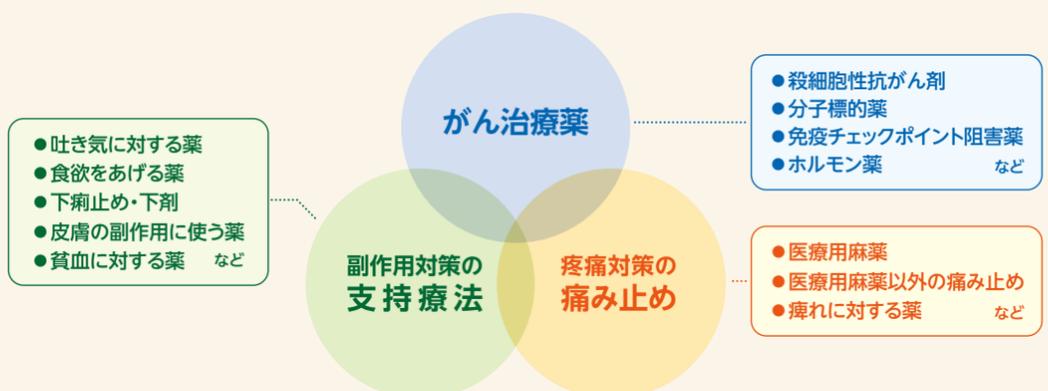
大きな不安があるかと思います。自宅で過ごすことが困難となってしまった場合、当院には緩和ケア病棟があります。事前に、入院相談外来を受診いただきますが、受診後は必要時に入院できるように、一つの安心につながるものと感じています。当院では地域の先生方との連携を重視し、いかなるときも市民のみなさんの安心を支えていきたいと考えています。

### CHECK 抗がん剤について【近年の薬物治療の発展】

皆さんは『抗がん剤』にはどのようなイメージがありますか？髪の毛が抜ける、食事がとれない等のイメージが強いかと思います。確かに従来から使用される『殺細胞性抗がん剤』ではそういった副作用が多いお薬もあります。

しかし、抗がん剤は年々進歩しています。最近では患者さん毎に遺伝子検査を行い、個別化医療として『分子標的薬』が選択できる場合もあれば、免疫の力を活性化させるお薬である『免疫チェックポイント阻害薬』も多くのがん種で使用されています。副作用等で治療を躊躇するケースもあると思いますが、がん種によっては様々な治療の選択ができる場合もあります。治療薬だけでなく副作用対策のお薬（支持療法）も発達しており、以前に比べると吐き気などの副作用はコントロールできるようになってきています。

#### がん治療中に使用されるお薬の例



治療薬だけでなく、副作用対策のお薬も、痛み止めも進歩してきています。そのため、年々、より安全で効果的に治療を行える選択肢が増えてきています。

※がんの種類や状態によっては使用できないお薬もあります。治療に対して不安なことや知りたいことがありましたら草加市立病院の医療者にご相談ください。

がんの進行により痛みが出た場合『医療用麻薬』が使用されます。『麻薬』と聞くと不安になる方も多いですが、『医療用麻薬』は厚生労働省が認可している安全な医薬品に

なります。当然ですが覚醒剤や大麻などの不正薬物とは異なります。不安なことなどがあれば、遠慮なくご相談ください。

## 4 ～まとめ～

がんにかからないように、また、なってしまったとしても、早期で見つかるように、我々ができることはたくさんあります。治療においても、今まで通りの生活に少しでも近づけられるように、患者

さんご家族も、治療チームの一員として参加いただき、相談しながら進めていけますので、ご安心ください。



市立病院では、2か月に一度市民公開講座を開催しています。広報そうかや当院HPなどで開催をお知らせしていますので、皆様のご参加をお待ちしています。